

①地上に出てきたアカウミガメの赤ちゃん②巣穴を掘り返し、中に残った卵を全部出して調査します＝2021年、鹿児島市喜入③砂浜のごみからまった赤ちゃん④動物に荒らされた巣穴。周囲にはウミガメの赤ちゃんの足あとと、動物の足あとが入り乱れています＝23年、肝付町岸良



夏の終わりには、あちこちの海岸でウミガメの赤ちゃんが砂から顔を出します。5月から7月にウミガメのお母さんが、砂の中に卵を産みます。卵が夏の日差しに温められて、約50～60日で赤ちゃんが生まれてくるのです。卵の中で成長した赤ちゃんは、内側から小さな穴を開けます。今まで守ってくれていた殻を破るこの時が、赤ちゃんとつて最大の試練です。自分の肺で呼吸を開始し、外から入り込んでくる病原菌や砂や雨などに耐えなければなりません。



ウミガメ 旅立ちは奇跡の連続

植物の根にからまってしまうこともあります。地上に出ると一目散に海に走り出します。待ち構えていたタヌキやカラスなどの敵をかくぐり、波に押し返されながらも、沖へ沖へと泳ぎだします。約24時間ひたすら泳ぎ続け、外洋に出ることができた赤ちゃんは、小さな体で広い太平洋を渡っていくのです。

かごしま水族館では、鹿児島県内の海岸で赤ちゃんが巣立った後の巣を掘り返して、何匹の赤ちゃんが無事に脱出できたかなどを調べる「ふ化調査」をしています。たくさん生まれなかつた卵を調べていると、赤ちゃんが海に旅立つまでは奇跡の連続なのだ、とつくづく実感します。さらに成長して親ガメになれるのは、その中の1000分の1と推定されています。

旅立った赤ちゃんが卵を産みにやってくるのは、早くても約20年後。その時に、安心して産卵できる砂浜が残っていることを願ってやみません。

(学習交流係・柏木由香利)